

銚子の魅力を
発信するちょよ!



のI♡銚子

第62回

いま、会えるベーグル屋さん
飯森 由美・堀井 聖子さんの巻

地域に愛されるベーグルのお店。自然体な2人にほっこりしたちょよ

自分の好きを形に

「もっと美味しく、もっとクロッチョらしく、そんな風に毎日毎日悩みながらも精いっぱい向き合える仕事に出会えて幸せ」

店長の飯森由美さんは、もともと看

護師だった。結婚を機に、カフェを始めたという夫とともに、2004年、クロッチョカフェをオープンした。素材と味にこだわり、東京へ行かなくても本場・吉祥寺のライトアップコーヒーが楽しめる。



▲チャーミングな由美さん(左)とやわらかい聖子さん(右)。バランスが絶妙

クロッチョカフェ

中央町13-6

☎(23)7096

11時～販売品が無くなり次第終了

水・木曜日定休



▲可愛いラテアート
パリスタの全国大会で入賞
全国にパリスタ仲間ができた



▲白が基調の可愛い外観。入りやすくて居心地が良い

名前の由来

由美さんの旦那さんが開店当時は店長で、サーフィン焼けで真っ黒だった。そこから可愛く崩してクロッチョ!

▶姉妹店「hakuji」 こだわりの本格スイーツを販売
小浜町2081-3 不定休



「ちょーピーのような凝ったラテアートを描くことはできるけど、1番美味しい瞬間を逃してしまふ。描かない方がいいのかと葛藤します。本音はすみませんがシンプルなデザインで早く飲んでほしいな(笑)」

3時起床。ベーグル作りの朝は早い

お客さんからリクエストが多かった当時流行のベーグル。どうせなら、ほかにはない美味しいものをつくらうと思った。レシピはすべてオリジナル。朝3時に起きて、開店までひたすら作っている。「種類が豊富で独創的」と店の看板メニューになった。

安定感抜群の存在感。聖子さん

「非日常を味わってもらおうと気持ちをはっていたオープン当初より、素を出している今の方が好調だし、楽しい。それでも毎日元気においしい物を作り、お客様をお迎える事が苦しいときもある。仕事前泣いていても、シャッターが上がったらフラットにする。穏やかな空気が流れる。これが大切。これができちゃう安定感のある聖子さんの存在が大きい。お客様を想う考え方が、絶対に譲れない部分と同じ。パートナーですごく大切だと思う」

苦しさを表には出さないフラットな2人。はじめて来た人も、いつも来て

くれる人にも、「自然体でいられるお店でありたい」というコンセプトにはない。

「コロナ禍の今、テイクアウトに100%の力を入れられる。オープン時にやられたかっただ形に近い。お休みすると忘れられちゃう不安もある。オープンを待ってくれているお客様と出会える喜びをかみしめながら、自然体でいられるカフェでお待ちしています」

綺麗なラテアートほど素材作りを大切にしている証だちょよ♡

広報ちようし

令和3年8月号第1235号 令和3年8月1日発行

発行/銚子市 編集/秘書広報課

〒288-8601 銚子市若宮町1-1

☎0479(24)8181(代表)

http://www.city.choshi.chiba.jp/

広報ちようしは、読みやすく分かりやすいデザインのため、UD(ユニバーサルデザイン)を使用しています。